



1. 銀座百年
2. Post Vietnam War
3. 雪の十和田湖・冬眠を返上

1. 銀座にとって昭和 43 年は忘れられない年だった。明治百年，路面電車も時代の波に勝てずなくなり，軌道敷石は広くなった歩道舗石に変身し，美しい御影石の模様を歩く人々に見せ，街路灯は昔懐しいガス灯のスタイルで近代的な光を投げ，見苦しい電柱などは全部共同溝に収まって，さっぱりした装いでデビューした年だ。

日頃銀座に縁のないわれわれが歩くと美しくなったことに驚くと同時に，道に迷い易くなった。

考えてみると，電車の停留所というのは道標べとして生活に溶けこんでいたことに気が付いた。これからも軌道の撤去が多くなるが，電停の代りに夜でもわかり易い施設をつくって欲しいものだ。

銀座の通りは国道 15 号線なので，実施したのは建設省であるが，街を美しくするための余分な費用は銀座の老舗の人々が中心になって負担もし，積極的に協力したようだ。

地方には〇〇銀座と称する所がたくさんあるが，単に繁華街の代名詞としないで，本家をみならって積極的に綺麗にすることを流行らせてもらいたいものだ。

また，土木技術者も文化に縁が深くなった今日，美的感覚をもっと養って，余裕のある仕事をやる必要があるようだ。

[S]

2. 最近，新聞紙上では，ベトナム戦争に関して，パリの和平会議や北爆の停止などが報じられ，一連の和平への動きが感じられます。戦争終了後のいわゆる Post Vietnam War について考えると，まず第 1 に，ベトナムをどのような政治形態にするかであり，第 2 には，戦後処理をいかにすばやく行なうかであると思います。

私たちが，テレビ，新聞などで破壊された道路，鉄道，橋梁，建物などを見るにつけ，土木屋の習性本能として，すぐにでも復旧したいという欲望におそわれます。

南北ベトナム（特に南における）の破壊状況は，その戦争の性格上，私たちが第二次世界大戦において東京・大阪などで受けたような全市規模の徹底的破壊とはだいぶ趣きが異なるようですが，ベトナム戦後の復興はなみたいていのもではなかろうことは，私たちの苦い経験からも容易に推察できます。

一つ一つの道路，鉄道，橋梁などを応急復旧することは焦眉のことですが，それと同時に，長期的な基本計画もすばやくつくっておき，千載に悔いを残さぬようにしなくてはなりません。私たちは第二次世界大戦後，無秩序，無計画な復興過程を経験してきましたが，このような悪弊を少しでもベトナムで繰り返さぬよう，土木屋として，ベトナム戦後のベトナム国民に，技術的・経験的アドバイスをしてあげるのが，技術者としてのつとめであるような気がします。

[J]

3. 東北は観光資源にめぐまれている。一步郊外に足を伸ばせば，四季こもごもの自然の美しさに驚嘆させられる所が多い。このようなけがれのない自然の造形美を求めて，“東北の観光”をおとずれる人々の数は年々増加している。しかし，雪国の観光地にとって一番の痛手は，冬の間“陸の孤島”と化し冬眠せざるを得ないという現実であろう。この雪国の代表的な国際観光地・十和田湖へ，今年は青森秋田両県から冬期間中も観光バスが走ることになった。これは 11 月 9 日国鉄が十和田観光電鉄と連帯運行策を決めたことによるもので，これによって冬も秋田，青森両県の観光客を交流させたいという地元民年来の宿願がやっと実を結んだわけである。冬の十和田観光バスの実現は，東北地方の観光開発を大きく前進させると同時に，地域部落の生活の向上に役立つものと大いに期待される。国鉄における赤字線廃止が問題になっているときだけに，これが地域格差は正のパイオニアとして十分な成果をあげるよう念願する次第である。

[C]